

第1学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○発表時の声の調節が上手にできない児童がいる。 ○筆順に気をつけて文字を丁寧に書くことができるようになってきている。今後、小さい字の表記や句読点など正しい表記で文を書くことができるようにする必要がある。 ○話したい、聞きたい、話し合いたいという気持ちを大切に、相手を意識して話す技能を身に付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に声が届く音量や明瞭に聞こえる速さを意識させると同時に、話すことのできる温かい雰囲気づくりをする。 ○経験したことや自分の気持ちなどについて順序がわかるように文を書いたり、楽しんで表現したりしようとする態度を育てる。 ○ペアやグループで話し合う活動を設定し、自信をもって自分の考えを話すことができるように 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりと発音させる。 ○身の回りの出来事や、経験したことを、順序を考えて書くことを指導し、書く楽しさを味わわせる。 ○ICT機器を効果的に活用し、視覚的にわかるよう提示する。 ○何のために話し合うのかを明確にし、児童に意識付ける。 ○読書や音読を通して語彙力を付ける。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○計算能力に、個人差が見られる。 ○読解力に課題がある児童が、文章問題や問題作りでつまずいてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の意味を理解し、計算の仕方を考えて、確実に理解できるようにする指導が必要である。 ○問題文で分かっていること、問われていることなどに注目させ、問題場面を把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数指導で、個に応じた適切な支援をし、基礎基本の定着を図る。 ○具体物を用いた活動を多く取り入れ、誰もが加法や減法の表現処理ができるようにする。また、反復練習を取り入れ、確実に理解できるようにする。 ○問題文を基に図をかき、図から何に注目するのかが理解できるようにする。 ○ICT機器を効果的に取り入れる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や地域の施設を利用し、身近な人・自然との関わりをもったりすることはできた。しかし、気付いたことをうまく表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動や体験を多く取り入れ、実感を伴った知的な気付きを促し、それを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が進んで、人・自然に関わり、遊びや生活を工夫することができるようにする。 ○児童が知的な気付きをもつことができるような声かけを意図的に行う。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌うことや体を動かすことなど好きな児童が多い。しかし、鍵盤ハーモニカや発声法など技能面で能力に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の感性を生かせるようにたくさんの曲に触れる機会をつくる。 ○曲を聴く活動を通し、正しくリズムや音を聞きとれるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声を心がけるように指導していく。 ○鍵盤ハーモニカでは、指が滑らかに動くように指の体操を取り入れる。また、児童同士で教え合う場面を取り入れ、学び合う機会を取り入れる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく創造活動ができたが、見本を見て、作り方を理解しても、同じように作れない児童が少数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実物投影機等を活用し、細かい作業も目で見て、完成形をイメージできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の技能を把握し、事前にごでつまずきそうか予想しておく。 ○児童がやる気を損なわないよう、失敗しても丁寧に一緒に作るようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○未経験の運動や慣れない運動にも積極的に取り組む児童が多いが、日常的に運動する習慣のある児童が少ないため、次のステップにつながりにくい。 ○一つの運動に集中しすぎて、周りが見えない、同時に二つ以上の運動ができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の運動を思い出せるような活動の工夫をする。 ○個人練習の時間を設ける等の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○休み時間に鉄棒や縄跳びをするよう声をかけたり、一緒に行うようにしたりして、日頃から運動する習慣をつけられるようにする。 ○できるようになったときの達成感を感じられるようにスモールステップで目標を設定させる。

第2学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<p>○長い文章を、順序に気を付けて書けるようになってきたが、文の続き方に注意したり、自分の考えを表現したりすることはまだ十分ではない。</p> <p>○話すことに意欲的ではあるが、相手に伝わる声で話したり、大事なことを落とさずに話したり、聞いたりすることは十分ではない。</p>	<p>○相手・目的意識をもちながら、題材を選んだり、文章の組み立てを考えたりしながら、順序を表す言葉を効果的に使って書こうとする態度を育てる。</p> <p>○話の内容について、大事なことは何かを意識させ、自分の思いも伝えるように学習形態を工夫する。楽しく話し合えるように指導していく。</p>	<p>○生活科や他の教科との関連を図りながら、児童の生活体験などと結びつけた、具体的題材を選ぶ。</p> <p>○カードなどを活用し、始め、中、終わりを意識し、文の続き方を考える学習活動を設定する。</p> <p>○自己評価・相互評価を取り入れ、互いの良さに気付く場を設ける。</p>
算数	<p>○2位数の筆算について、繰り返し下りの計算の、技能の理解が不十分な児童が数名みられる。</p> <p>○文章問題を読み取り、解決方法を考えて立式したり、自分の考えをもって学習したりすることに個人差がある。</p>	<p>○基礎基本の問題を精選して、繰り返し練習して理解を図るなど、継続的な指導と個に応じた指導をしていく。</p> <p>○文章問題を読み取るために、具体物を動かしたり、絵や図などで表したりして考えていく。</p>	<p>○習熟度に応じた少人数指導を行い、個に応じた適切な支援によって、基礎基本の定着を図る。</p> <p>○具体物や半具体物の教具を用意し、児童の実態に合わせて活用していく。</p> <p>○自力解決する時間を確保し、自分の考えを持って学習に取り組めるようにする。</p>
生活	<p>○身近な地域への興味関心は高まったが、地域の人々との交流は十分ではなかった。</p>	<p>○積極的に地域の人々と関わることができ環境を作っていく。</p> <p>○通年で動植物に対して愛着をもてるように関わる場面を多く取り入れながら、指導していく。</p>	<p>○野菜作りや生き物を育てる活動を、計画的に取り入れていく。</p> <p>○地域や公共施設の人々、保護者などに協力していただける場を検討し、依頼していく。</p>
音楽	<p>○音楽に親しみ、楽しんで表現活動しようという態度は育ててきているが、リズムうちの理解が十分とは言えない。</p> <p>○鍵盤ハーモニカなど、楽器の技能の個人差は大きく、課題曲を演奏できない児童がいる。</p>	<p>○児童が興味、関心を深めながら、取り組める多様な打楽器を選択できるように準備する。</p> <p>○手拍子や打楽器などでリズムをつなげたり、つくったりする指導を行う。</p> <p>○児童が楽しく演奏し、表現できるように個別の指導を工夫する。</p>	<p>○リズム譜なども活用し、自分の思いをリズムで表現する活動を随時取り入れていく。</p> <p>○手拍子や打楽器などでリズムをつなげたりつくったりする学習活動を設定する。</p> <p>○いろいろな楽器と関わる機会を増やし、演奏の楽しさを味わわせながら、鍵盤ハーモニカを練習帳などで、段階的に学習させていく。</p>
図工	<p>○楽しく創造活動はできたが、創造性には個人差がある。</p> <p>○鑑賞において自分の思いや作品のよさ・美しさを伝え合ったりすることが十分に行えない。</p>	<p>○創造することの楽しさを感じる題材で、思考・判断し、表現する力、技能を身につけさせる。</p> <p>○言語活動の充実を図るように題材の構成、活動の流れを工夫する。</p>	<p>○具体的な例を提示し、イメージをふくらませ創造できるよう、支援する。</p> <p>○材料や用具に十分慣れさせたり、試したりする時間を多く作り、教材の特性を生かした表現ができるようにする。</p> <p>○制作過程での鑑賞においても、作品作りの工夫や思いを伝え合うようにしていく。</p>
体育	<p>○運動の仕方を進んで工夫することが不十分である。</p> <p>○体の使い方についての多様な技能に個人差がみられる。</p>	<p>○進んで運動の仕方を工夫し、より良い動きを目指す指導をする。</p> <p>○繰り返し練習することができるよう1時間の授業構成を工夫する。</p>	<p>○友達のよい動きを全体に広める活動を取り入れる。</p> <p>○繰り返し練習する機会を設け、基礎となる技能を習得できるようにする。</p>

第3学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<p>○相手や目的に応じて、伝えたいことを明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える力を育てる必要がある。</p> <p>○登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えたり、文章を読んで感じたことや考えたこと、理解したことなどについて主体的に発信したり共有したりする力が十分でない。</p> <p>○文字の組み立て方を理解し、形を整えて書く力が十分でない。また、筆圧も弱く文字の配列を考えて文を書く力を育てていく必要がある。</p>	<p>○書く指導においては、各教科と関連づけて指導し、書く内容の中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書けるようにする。</p> <p>○対話的な学びを取り入れ、児童が主体的に物語や教材・他者と関わり、課題に向かって対話を通して追究させていくようにする。</p> <p>○点画や始筆、送筆、終筆などについて毛筆による学習を通して硬筆で書く時にも常に意識させていくようにする。</p>	<p>○文章を書くときに初め・中・終わりの構成を常に意識させ、組み立てメモの指導や目的をはっきりさせた書き方の指導をする。目的意識をもたせた手紙文を書く学習を取り入れる。また、図書館司書と連携し、資料を集めやすい環境をつくる。</p> <p>○詩や物語、教材などを読み、内容を説明したり考えたり、伝えあったりする活動を通して一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>○漢字練習では、文字の組み立て方を身に付けさせ、常に意識して形を整えて書くように指導していく。</p> <p>○文を書く時は、児童自ら環境を整え、行と文字のバランスに気を付けて書くことができるようにする。</p>
社会	<p>○資料を活用したり、資料から分かることを読み取ったりする力を付けていく必要がある。</p> <p>○興味・関心をもって地域の特色や産業について追究したり、考えたりしようとする意欲を高めていく必要がある。</p>	<p>○児童の興味関心を高めるような身近な資料を提示し、資料の活用を習慣化していく。単元を通して課題解決のための道筋をつけさせ、地図やグラフなどの資料を的確に読み取ることができるよう指導していく。また、必要な情報をまとめる技能を身に付させる。</p> <p>○自ら課題をもち、自らの力で課題を解決していく力を養い、地域社会の一員として地域の特色やよさなどを考えさせるようにする。</p>	<p>○表・グラフ・写真・文献など資料の特徴を生かした使い方を指導する。また、各資料から読み取ったことを新聞やパンフレットなどにまとめるための指導を効果的に行う。</p> <p>○実際に見学したり、調べたりすることで興味・関心を高められるようにする。見学など具体的な事象から、一人一人が身近なことから課題を見付けたり、発見することの楽しさを感じ取ったりして、自分自身の課題をもてるようにする。</p>
算数	<p>○繰り下がり、繰り上がりについての理解や九九など基礎基本の定着に個人差がある。</p> <p>○文章問題を読み取り、解決方法を考えて立式したり、自分の考えを説明したりすることに個人差がある。</p> <p>○量感を十分に身に付けていくことが必要である。</p>	<p>○個々に合った習熟度別コースを選べるようにする。</p> <p>○ドリルやプリントなどを効果的に利用して基礎基本の定着を図る。</p> <p>○既習内容を活用し、操作的な活動を取り入れるなどして文章への理解を確実にする。</p> <p>○自分の考えをもち、考えたことを言葉や図などを用いて説明できるようにする。</p> <p>○算数的な活動を通して、身近な事象を効果的に用いて意欲を高めるとともに、量についての豊かな感覚をもてるようにする。</p>	<p>○各コースのねらいを明確にし、それに沿った授業展開を工夫する。</p> <p>○家庭学習用、授業用のドリルを用いて基礎基本の定着を図る機会を多くもてるようにする。</p> <p>○自力解決する時間を確保し、自分の考えをもって学習に取り組めるようにする。また、考えを表す方法(絵、図、数直線、式、言葉など)を意識させ、正しく表現できるようにする。</p> <p>○作業的、体験的な活動を取り入れ、量の感覚を豊かにする。測定の際には、見当を立ててから測定する活動をできるだけ多く取り入れる。</p>
理科	<p>○自然の事物・現象を比べながら、学習課題を見出すことに個人差がある。</p> <p>○安全に留意しながら、簡単な器具を用いて実験・観察を進めていく必要がある。</p> <p>○物の性質や動植物の成長のきまりなどを、体験を通して確実に理解することが十分とは言えない。</p>	<p>○事象・現象を的確に結果として記録することができるよう、科学的な記録の仕方を指導する。</p> <p>○エネルギー・粒子・生命・地球それぞれの分野についての学習の視点について指導し、考察する力を育む。</p> <p>○記録を基に課題に向き合えた考察になるよう、一人一人の考えを丁寧に確認し見取っていく。</p>	<p>○予想を立てる際は、根拠を基に論述することができるようにする。</p> <p>○量的・関係的・質的・多様性・共通点・時間的などの視点を基に、比較しながら考察を重ねられるよう、言語環境、学習環境を整える。</p> <p>○問題解決型学習を理解し自力解決ができるよう、思考のプロセスを尊重し授業を進めていく。</p>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○日常的、及び、主体的に運動に取り組む児童とそうでない児童とはっきり分けられる傾向にあるため運動技能の個人差が大きい。</p>	<p>○縄跳びや鉄棒、ボールゲームなど休み時間に簡単に取り組める運動を広めていく。 ○低学年の学習内容も入れ込みながらの学習カードを作成し、児童が基礎からの課題に取り組むことができるように支援する。</p>	<p>○意欲的に運動に取り組めるようにモデルステップで課題を設定した学習カードを活用することで、できたという達成感を味わえる工夫をする。 ○グループ学習を取り入れ、互いに課題を達成できるようにアドバイスし合える活動を設定する。</p>
音楽	<p>○真面目な学習態度で取り組んでいる児童が多いが、支援が必要な児童もいる。 ○おおむね姿勢や発声に気を付けて歌うことができる。リコーダーは簡単な曲が演奏できるようになってきているが、タンギング等がまだ十分でない児童がいる。 ○楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉にする力が伸びたが、音楽の要素について表現する語彙について十分ではない児童がいる。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に付けさせる。 ○演奏の技術のレベルアップを図り、曲想にふさわしい表現を工夫するようにさせる。 ○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素の働きに気付き、感じ取ったことを言葉で表すことができるようにする。</p>	<p>○課題に対して、分かりやすく具体的に指導する。 ○学習内容を工夫し、歌や楽器の演奏の基礎基本を繰り返し指導する。 ○個別指導を大切に、個々の児童に合った言葉かけをすることを心掛ける。</p>
図工	<p>○造形に対する意欲が高い児童が多いが、支援が必要な児童もいる。 ○豊かに発想できる児童が多いが、発想をいかすための基本的な技能に個人差があり、基本的な道具の扱いなどが十分でない児童がいる。 ○題材に意欲的に取り組む児童が多いが、中には支援を要する児童もいる。</p>	<p>○児童がより意欲的に題材に取り組めるように、身近材料などを活用した題材を工夫する。 ○道具や材料の使い方などの基本的な技能を身に付けられるようにする。 ○支援を要する児童に対する個別の声掛けを工夫する。</p>	<p>○児童が興味、関心を持ち意欲的に取り組めるよう、興味関心に即した題材を工夫する。 ○げんごう・のこぎり・カッターなどを安全に気を付けながら正しく使えるように指導する。また、はさみ・のり・絵の具など基本的な道具の使い方を身に付けさせる活動を学習の中に繰り返し取り入れる。 ○支援を要する児童に対し適切な助言を与え、題材に集中して取り組めるようにする。</p>

第4学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<p>○物語文を読むことが好きで、叙述をもとに課題を解決していこうとする児童が多い。</p> <p>○文章の主語、述語にねじれがあり、簡潔に書くことに課題がある。</p> <p>○話の中心を分かりやすく話したり、話の中心を聞いたりすることに課題がある。</p>	<p>○児童の感想をもとに、課題作りを行う。課題作りではよい課題とはどのようなものを具体的に示す。</p> <p>○一文を短く書くことを意識できるようにする。</p> <p>○主語と述語を最初に考え、その間に必要な言葉を入れるようにさせる。</p> <p>○話型を示す。ペアを変え、繰り返し、話をさせる。聞くことに関しては、一番大切なことをメモさせる。</p>	<p>○感想を書く際に視点を与え、課題作りの際に生かせるようにする。</p> <p>○より主体的に学べるような話し合い活動の在り方を工夫していく。</p> <p>○1時間の授業の中で書く活動を入れ、書くことに慣れさせる。</p> <p>○短いスパンで文章の見直しを数回行い、良い文章は、その場で全体に広め、自分の文章を直す時間を設定するようにする。</p> <p>○同じ内容でも、1対1で何度も繰り返し話をさせる機会を設ける。</p> <p>○一番大切なことを相手に手紙で伝えるという書く活動を取り入れることで、聞く意識とメモを取ることの必然性をもたせる。</p>
社会	<p>○社会の学習に対する関心や意欲はとても高く前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>○地図記号の含まれた資料を活用し、読み取ったり発展的に考えたりすることに課題がある。</p>	<p>○自ら課題を見つけたり、解決したいという意欲をもたせたりするようにする。</p> <p>○自分の経験から予想することや学習したことを今後に生かすことができるようにさせる。</p> <p>○地図帳を用いる場面を意図的に設け、地図記号や地形の特徴に目を向けられるようにする。</p> <p>○写真や地図から気付いたことを見付け、共有する中で、資料の見方の視点をもてるようにする。</p>	<p>○児童の意見をもとに課題を設定し、単元の見通しをもたせ、意欲を持続させるようにする。</p> <p>○学習の途中や終わりに、生活場面を振り返らせるような投げかけをする。</p> <p>○地図帳で地図記号や地形の特徴を調べる必要性のある資料や課題を児童に提示する。</p> <p>○資料から読み取ったことを見付け、そこからどのようなことが分かるかを考える時間を設ける。友達と考えを交流する中で、新たな考えや疑問を見出す楽しさを味わわせる。児童の実態に応じて途中で意見を共有する時間を設けるなど、展開を工夫する。</p>
算数	<p>○計算に時間がかかったり、正確さにかかけたりする児童がおり、計算力に個人差があることが課題である。</p> <p>○課題解決については、自分の考えの根拠を示しながら友達に伝えたり、友達の考えと自分の考えを比較して考えたりする力が十分でない。</p> <p>○量感を身に付けていくことが課題である。</p>	<p>○個々に合った習熟度別コースを選べるようにする。</p> <p>○ドリルやプリントなどを効果的に利用して基礎基本の定着を図る。</p> <p>○自力解決の中で、既習事項を用いて自分の考えを分かりやすく説明できるようにする。</p> <p>○課題解決場面で考えを共有化する時間を十分確保し、算数的表現力を養う。</p> <p>○算数的な活動を通して、身近な事象を効果的に用いて意欲を高めるとともに、量についての豊かな感覚をもてるようにする。</p>	<p>○コースに応じて、既習事項など基礎基本の定着を確認し、児童のニーズに合わせた授業を展開する。</p> <p>○家庭学習用、授業用のドリルを用いて基礎基本の定着を図る機会を多くもてるようにする。</p> <p>○自力解決する時間を確保し、自分の考えを持って学習に取り組めるようにする。また、ノート活用を図り、用語を正しく使うと共に、算数的表現力を高める。</p> <p>○作業的、体験的な活動を取り入れ量の感覚を豊かにする。測定の際には、見当をたててから測定する活動をできるだけ多く取り入れる。</p>
理科	<p>○実験・観察の技能が全体的に不十分であり、課題である。</p> <p>○理科用語を使って、実験結果を考察したり問題に答えたりする力が十分でない。</p>	<p>○実験器具の名称や使い方を一つ一つ、丁寧に指導する。</p> <p>○実験や観察の手順を課題解決の道筋を確認しながら正しく使えるようにする。</p> <p>○理科で使う用語の使い方や意味を指導するだけでなく、意識して多用していく。</p>	<p>○単元計画をする際、器具の名称や使い方を指導する時間を組み込み、授業を展開する。</p> <p>○実験の手順について、視覚的に分かりやすくするためにICTを活用する。</p> <p>○結果や考察を書く際に、理科で使用する用語の意味や使い方を確認する。また、文章の中に使えるようにしていく。</p>

第4学年-2

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○自分に合っためあてを立てることが課題である。</p> <p>○技のポイントを理解していないため、ポイントを意識して取り組んだり、グループ学習の際に的確な声かけをしたりすることが十分でない。</p> <p>○様々な運動感覚を身に付けることが課題である。</p>	<p>○スモールステップで自分に合っためあてを立てることができるようにする。</p> <p>○学習カードや掲示、デジタル教材などを活用し、技のポイントを視覚的にわかるようにする。</p> <p>○補助運動の場の設定を工夫し、楽しみながら様々な運動感覚が育つようにする。</p>	<p>○最初の数時間はクラスで共通の課題を設定し、技に取り組む。その中で自分の課題を意識させ、後半は自分に合っためあてを具体的に立てることができるようにする。めあてを上手に立てた児童をその場で称賛し、お手本にさせる。</p> <p>○技のポイントを動きに沿って、一つ一つ確認をしていく。オノマトペを使った声かけを示し、児童同士がより声かけをしやすいようにする。</p> <p>○デジタルカメラやタブレットを活用し、技を客観的に見ることで、よりポイントを意識させる。</p> <p>○ゲーム感覚でできるような補助運動を取り入れ、児童が楽しみながら活動することができるようにする。</p>
音楽	<p>○真面目な学習態度で取り組んでいる児童が多いが、支援が必要な児童もいる。</p> <p>○範唱を聴いておおむね姿勢や発声に気を付けて歌うことができる。リコーダーは、難しい指使いにも挑戦し演奏できるようになってきたが、まだ十分ではない。</p>	<p>○学習のきまりをしっかり身に付けさせる。</p> <p>○演奏の技術のレベルアップを図り、曲想にふさわしい表現を工夫するようにさせる。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素の働きに気づき、感じ取ったことを文章で表すことができるようにさせる。</p>	<p>○課題を明確にし、分かりやすく具体的に指導する。</p> <p>○学習内容を工夫し、演奏技術が身に付くよう繰り返し指導すると共に、児童と共に作り上げていくようにする</p> <p>○個別指導や言葉かけを大切にする。</p>
図工	<p>○造形に対する意欲が高いので、さらに高度な課題に取り組ませたい。</p> <p>○豊かに発想できる児童が多いが、発想が広がらず既存のデザインを模倣したがる児童もいる。</p> <p>また発想を生かすための基本的技能が十分でない児童もいる。</p> <p>○題材に意欲的に取り組む児童が多いが支援を要する児童もいる。</p>	<p>○児童がより意欲的に学習に取り組めるよう、表現方法の自己選択等自分から工夫して表現できる題材を工夫する。</p> <p>○道具や材料の使い方などの基本的な技能を身に付けさせる。</p> <p>○支援を要する児童に適切な対応を行う必要がある。</p>	<p>○児童が興味、関心を持ち意欲的に取り組めるよう、選択肢の多い題材を工夫し、提示していく。</p> <p>○糸鋸・のこぎり・彫刻刀などを安全に気を付けながら正しく使えるように指導する。また絵の具等基本的な道具の使い方を身に付けさせる活動を学習の中に適宜取り入れていく。</p> <p>○支援を要する児童に対し適切な助言を与え、題材に集中して取り組めるようにする。</p>

第5学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<p>○主語・述語の働きについて、理解不十分な児童がいる。</p> <p>○筋道の通った文章の構成や展開を書くことが十分ではない。</p> <p>○叙述をもとに、話の展開や登場人物の心情の変化、要約を読みとることが苦手な児童が多い。</p> <p>○漢字の読みはできるが、書きや文章表現で、正しい漢字を使用することが苦手な児童が多い。</p>	<p>○文の構成や語の仕組や働きについて定期的に指導をする。</p> <p>○語を増やす指導や文末表現に着目する指導を行う。</p> <p>○文学的文章と説明的文章の仕組や構成を知るとともに、文章の読解の仕方を指導する。</p> <p>○語句や漢字の学習時間を確保し、定着を図る。使い方を実際の文章の中で指導する。</p>	<p>○短文作りを通して、文の構成や語の仕組について繰り返し指導し理解を定着させる。</p> <p>○日記やミニ作文の取り組みを通して、文章の構成や推敲の仕方の指導を丁寧に行い、目的に合わせて文章を書く力を伸ばす。</p> <p>○いろいろな文章に触れ、文章全体を通して読む力を身に付けさせる。</p> <p>○新出漢字の練習や漢字のミニテストを徹底して行う。作文やノート指導を通して、漢字の使用についての意識付けをさせる。</p>
社会	<p>○本質的な学びにするためにも「社会的な見方・考え方」を働かせる必要がある。</p> <p>○学習したことを基に、自分の興味・関心に基づいた新たな「問い」を立てることが難しい。</p> <p>○自分の考えや意見をもって学習したことをまとめる力が十分でない。</p>	<p>○位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目できる教材準備や資料提示が必要である。</p> <p>○毎時間ごとや単元を通して、学びの変容が見れるよう振り返りの時間を確保していく。</p> <p>○自主的に調べる学習を取り入れ、まとめて発表する授業を繰り返す行う。</p>	<p>○具体的に問う視点を授業中に児童に繰り返し指導することで定着を図りたい。</p> <p>○「社会的な見方・考え方」に基づいた振り返りの視点を繰り返し指導していく。</p> <p>○資料の選択の視点や方法、ノートへのまとめ方を指導する。</p> <p>○教材研究と教材準備の時間の確保に努め、一人一人の興味・関心に応じた教材開発を図る。</p>
算数	<p>○計算やコンパス、分度器などの技能に個人差がある。</p> <p>○課題解決に対する意識は高い。また、自分の考えの根拠を示しながら友達に伝えたり、友達の考えと自分の考えを比較して考えたりすることができるようになってきた。数学的な表現力や理解力を伸ばすことが必要である。</p> <p>○量感を身に付けていくことが課題である。</p>	<p>○習熟度別学習の中で、児童のニーズに応じた指導をする。</p> <p>○ドリルやプリントなどを効果的に利用して基礎の定着を図る。</p> <p>○課題解決の意欲を高めるとともに、集団討議で課題解決を図るための、表現力や理解力を高めていく。</p> <p>○課題解決場面で考えを共有化する時間を十分確保し、算数的表現力を養う。</p> <p>○算数的活動を通して、計算、測量、作図などの基礎力の向上を図るとともに、量についての豊かな感覚をもてるようにする。</p>	<p>○各自が自分の課題を理解して、コース選択できるように助言する。</p> <p>○測定や作図の活動を多く取り入れ、道具の扱いに慣れさせる。</p> <p>○身近な事象や興味のある数量を効果的に用いて意欲を高めるとともに、自力解決でノート活用を図り、算数的表現力を高める。</p> <p>○具体物、半具体物を使って数量感覚を養うとともに、聞き手の理解度に合わせて、絵や図、数直線、式などを活用して説明できるようにする。</p> <p>○作業的、体験的な活動を取り入れ量の感覚を豊かにする。測定の際には、見当を立ててから測定する活動をできるだけ多く取り入れる。</p>
理科	<p>○問題解決学習の流れを計画しているが、「自ら問いを起こす」児童は半数しかいない。</p> <p>○実験・観察の技能及び記録の内容について個人差がある。</p> <p>○結果から考察にかけての思考力が十分でない。</p>	<p>○問題に対して、一人一人が自ら「問いを起こす」ことができるように指導する。</p> <p>○良い記録の方法を理解できるように指導する。</p> <p>○実験・観察の目的を常に意識させる。</p>	<p>○前学年や関連する単元を想起させることで疑問をもちやすい環境づくりを行う。また、児童に身近な問題提示を行う。</p> <p>○優れた記録をした例示や実際に児童のノートを掲示する。記録の評価基準を示す。</p> <p>○結果から何が分かったのかを、実験・観察の目的と照らし合わせながら考察させる。</p>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○運動が苦手な児童の自己肯定感が低く、意欲が低い。</p> <p>○課題を生かさずに次の授業に臨む児童が多い。</p>	<p>○授業のユニバーサルデザイン化を行い、「できる」経験を増やし、自己肯定感をもてるように指導する。</p> <p>○自らの課題を考察し、目的をもって次の授業に臨むよう指導する。</p>	<p>○児童一人一人にあった目標を設定する。また、授業の流れや学習の場づくりでも、スモールステップを大切にして、学びの変容を意識できるようにしていく。</p> <p>○友達や教材、教師との対話を通じて、課題を明確にできるようにする。また、児童の思考が一目で分かるようにワークシートに記録させ、1時間ごとに指導・評価をすることで次時に適切な指導ができるようにする。</p>
音楽	<p>○前向きな学習態度で取り組んでいる児童が多いが、支援が必要な児童もいる。</p> <p>○良い姿勢で集中して歌うことができる児童が多い。楽器のリコーダーは、素早い指の動きや音色に気を付けて演奏できるようになってきた。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に付けさせ、定着させる。</p> <p>○演奏の技術のレベルアップを図り、曲想を生かした表現を工夫するようにさせる。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聞き取り、想像したことや感じたことを文章で表すことができるようにさせる。</p>	<p>○課題を明確にし、分かりやすく具体的に指導する。</p> <p>○選曲を工夫し、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうよう指導する。</p> <p>○課題の評価を明確にし、指導内容の定着を図るとともに達成感を感じ取れるようにする。</p>
図工	<p>○意欲的に造形活動に取り組み、自分なりの表現方法を工夫できる児童が増えたので、さらに高度な課題に取り組ませる。</p> <p>○豊かに発想できる児童も多いが、高学年になると、自己の作品に対して自信の持てない児童も増えてくる。</p>	<p>○多様な技法や表現方法を紹介し自分の作品のイメージに合わせて自己選択できる部分を多くする。</p> <p>○人とは違った良さを認め合う活動を多く持ち、自信を持って発想できるよう適切な声かけをする。</p>	<p>○児童一人一人が意欲的に取り組めるよう題材、テーマを工夫する。</p> <p>○手順を示して見通しをもたせ、今何をするのかを明確にする。さまざまな表現方法を示し、作品の製作中の鑑賞を取り入れながら、児童一人一人の学び合いを深める。</p>
家庭	<p>○調理実習や被服実習など作業を伴う授業では、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいる。しかし、中には家庭での実践や生活経験が乏しく、技術が伴わない児童も見られ、個別の支援が必要な児童もいる。</p>	<p>○日常生活にいかせる基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、家庭で実践することの大切さを意識させることが大切である。</p> <p>○被服実習の苦手な生徒が、作品製作途中で飽きてしまったり、嫌になって投げ出したりすることがないように学習内容や指示の出し方を工夫する。</p> <p>○個々の能力に応じた指導を行い、苦手意識を持たせないように工夫する。</p>	<p>○基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるため、板書やICT機器を使って資料の可視化に取り組み、最後まで話が聞けるようにより明確な指示をする。</p> <p>○丁寧な机間指導を行い、それぞれの児童の進捗や技能に合った支援や声かけをする。</p> <p>○被服実習では、手元見本や目安を示す資料や手立てを作り、教え合いや学び合いの活動を取り入れながら、進捗を調節する。</p>

第6学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<p>○語彙の量や語句の意味理解、漢字の読み書きなど、的確で豊かな表現をすることについて、全体的に課題がある。</p> <p>○伝える相手や目的に応じて文章を書いたり、話したりすることなど、自分の考えや思いを伝えることについては個人差が大きく、課題のある児童が少なくない。</p>	<p>○言語事項の指導に関しては、言葉や漢字などドリル的な学習が必要なものは年間を通して継続的に実施し、定着率を向上させる。</p> <p>○目的や相手に応じた話し方や書き方の工夫や構成を考えさせ、まとまった文章や話ができるようにする。</p>	<p>○語句や漢字の意味や使い方を国語辞典などで調べたり、熟語や文作りをしたりすることを通して、使える語彙を増やしていく。</p> <p>○読解の学習を進める中で、要旨を書きまとめたり、読み深めたことについて自分の意見を書いたり、発表したりするなど、さまざまな活動を取り入れ、伝え合う活動を通して意欲を高める。</p>
社会	<p>○歴史学習への興味関心、知識量の個人差が大きい。また、資料等を活用し自ら調べまとめていく力に個人差が大きい。</p> <p>○都道府県名や地図の読み方など、基本的な知識の習得に課題のある児童が多い。</p>	<p>○友達と気付きや考えを交流し、社会的事象について、広い視野から考え直すことができるようにする。</p> <p>○自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めさせる。</p>	<p>○各時代を象徴するような歴史上の人物や出来事に焦点をあてて授業を展開する。</p> <p>○提示する資料を工夫して、何を調べのかを明確にし、ノートや新聞などへのまとめ方を工夫させる。</p> <p>○歴史学習で出た地名等を地図帳で調べて地図を読む習慣を付ける。</p>
算数	<p>○既習事項の定着に個人差があるほか、計算や作図などの正確性に課題のある児童が少なくない。</p> <p>○数量関係を読み解く力や、課題を多角的な視点から解決しようとする力を養う必要がある。</p> <p>○自分の考えを、例などをあげて分かりやすく説明する力を養う必要がある。</p> <p>○量感を十分に身に付けさせることが必要である。</p>	<p>○習熟度別コースで、児童のニーズに応じた指導をする。</p> <p>○ドリルやプリントなどを効果的に利用して基礎の定着を図る。</p> <p>○課題解決の意欲を高めるとともに、集団討議で課題解決を図るための表現力や理解力を高めていく。</p> <p>○課題解決場面で考えを共有化する時間を十分確保し、算数的表現力を養う。</p> <p>○算数的活動を通して、計算、測量、作図などの基礎力の向上を図るとともに、量についての豊かな感覚をもてるようにする。</p>	<p>○コースを的確に選択できるよう児童に助言すると共に、自力解決の時間設定などを工夫し、児童のニーズに合わせた授業を展開する。</p> <p>○身近な事象や興味のある数量を効果的に用いて意欲を高めると共に、自力解決でノート活用を図り、算数的表現力を高める。</p> <p>○具体物、半具体物を使って数量感覚を養うとともに、聞き手の理解度に合わせて、絵や図、数直線、式などを活用して説明できるようにする。</p> <p>○作業的、体験的な活動を取り入れ量の感覚を豊かにする。測定の際には、見当をたててから測定する活動をできるだけ多く取り入れる。</p>
理科	<p>○自然科学的事象の知識的理解にとどまり、条件の制御へ対応する力や知識の活用場面で応用する力が十分でない。</p> <p>○実験や観察への意欲関心は高いが、問題解決学習の流れに沿ったまとめの仕方について、課題がある。</p>	<p>○実験・観察を行う際、自分なりの見通しや予想をもつ場面や、結果から理由や原因、科学的規則性を考え、まとめられる場面を設けるようにする。</p> <p>○問題解決学習の流れに沿った予想、実験・観察の手順や様子、結果、理由や原因を明記した記録の仕方を指導する。</p>	<p>○単元の始めに、実験や観察のねらいが明確になるような事象提示をする。また、実験の方法を考える際、条件の制御に着目することを意識させる指導を計画する。</p> <p>○問題解決学習の見通しを立てることについての助言を工夫し、興味関心の継続、意識化を図り、新たな課題を見出すようにする。</p>

第6学年-2

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○意欲的に取り組む運動と、そうでないものの差がある。</p> <p>○運動に進んで取り組む児童と、取り組む姿勢に課題のある児童の二極化が見られる。</p>	<p>○運動が苦手な児童も意欲的に取り組めるように、運動の特性に応じた楽しさに十分ふれさせる。</p> <p>○児童の実態に応じて、授業の計画を立てる。</p> <p>○安全面におけるあらゆる配慮を行う。</p>	<p>○運動の機能的な特性を分析し、それを指導者が共通理解できるようにする。</p> <p>○友達と教え励まし合いながら学習できるようにチーム編成の工夫をする。</p> <p>○見通しをもって自己の課題が解決できるように、資料、学習カード等を工夫する。</p>
音楽	<p>○前向きに取り組む児童がいる一方、人前で歌ったり自分の考えを発表したりすることについて抵抗感がある児童もいる。</p> <p>○頭声と地声など発声の仕方に個人差がある。</p> <p>○楽曲を聴いて感じ取ったことを文章にするため、さらに音楽的な表現の語彙を増やしていく必要がある。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に着けさせ、定着させる。</p> <p>○演奏の技術のレベルアップを図り、思いや意図をもって表現するようにさせる。</p> <p>○楽曲を聴いて音楽を形作っている要素を聞き取り、楽曲の特徴や良さを理解することができるようにさせる。</p>	<p>○課題に対して、分かりやすく具体的に指導するとともに、児童の自己肯定感を高められる声掛けを心掛ける。</p> <p>○選曲を工夫し、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうよう指導する。</p> <p>○課題ごとの評価を明確にし、指導内容の定着を図るとともに達成感を感じ取れるようにする。</p>
図工	<p>○意欲的に造形活動に取り組んでいる児童が多いが、学習態度が身に付いておらず意欲が低い児童もいる。</p> <p>○豊かに発想できる児童も多いが高学年になると、発想することに苦手意識をもつ児童が増えてくる。</p>	<p>○基本的な学習態度をしっかりと身に付けさせる。</p> <p>○児童一人一人が意欲的に題材に取り組めるようにする。</p> <p>○自分の思いを自由に表現できるように題材を工夫し、自信を持って発想できるよう適切な声かけをする。</p>	<p>○手順を示して見通しをもたせ、今何をするのかを明確にする。</p> <p>○児童一人一人が意欲的に取り組めるよう表現方法や使う画材などに幅をもたせ児童が自分の考えで選択できるように題材、テーマを工夫する。</p> <p>○中間鑑賞や技法の紹介を取り入れながら、児童一人一人の造形的な表現力を高め、お互いの良さを認め合える機会を多く持つ。</p>
家庭	<p>○意欲的に取り組もうとする児童が多いが、中には最後までしっかり話を聞くことや、自分の力で粘り強く課題解決に取り組むことが苦手な児童も見られる。</p> <p>○学んだことを家庭で実践しようという意欲を高めることが課題である。</p> <p>○作業はコツコツと取り組めるが、実習の後片付けなどが十分できない児童も見られる。</p>	<p>○関心・意欲を継続させるために、日常生活との関連を意識させた参加型の授業を工夫する。</p> <p>○児童一人一人が意欲的に取り組めるよう、それぞれの家庭での日常生活を振り返ったり、家庭実践できる場や機会を意図的に設けたりする。</p>	<p>○日常生活との関連を意識させるために、具体例を多く挙げ、意見を引き出せるような発問の仕方を工夫する。</p> <p>○協力することの大切さを繰り返し話したり、教え合える雰囲気づくりをしたりして、学び合いや対話活動などの学習活動を多く取り入れる。</p> <p>○製作では、自分の力量に合わせた作業の順序や工程などを考えて判断させ、個人のめあてや目標を決めさせる。</p> <p>○長期休業などを利用して、学んだことを家庭で実践する機会を作る。</p>